

関東大震災直後の、巨大ベストセラーが甦る。

# 日本脱出記

アインシュタイン博士が来日、大杉栄は密かに渡欧。

有島武郎が金を出す。改造社、東京日日が特ダネを抜く。

中国共産党創始者、大韓民国臨時政府の要人たちと上海で会う。

得意の語学でパリ歓楽通りに遊ぶ。獄中の白ワインの味。

「甘粕事件」まで数ヶ月。栄38歳、アナーキーな密航記！！

▼「探偵の幾千もの怪しい眼が彼の行方を血眼で搜索し、あるいは露都に、あるいは北京に、上海に、広東に、ハルビンに国民の眼が向けられる時、彼は巴里官憲に抵抗して捕縛された、この時突如として『改造』編集局に現れたのがまがいなき彼自筆の趣味深いこの一篇だ」（改造社広告）▼「彼の最近の面目がギラギラと立体的に躍っている」（一九二三年十一月七日付東京日日新聞）▼「今世紀にも類のない紀行であり随筆集である」（一九二三年十一月八日付読売新聞）▼「その詩人的資質と革命家的気迫が全巻にみなぎっている」（一九二三年十一月十七日付東京朝日新聞）▼「嚴重なる警戒網を破って国外に脱出し天下の耳目を轟動せしめたる、日本無政府主義の巨頭大杉栄氏外遊の真相はことごとく本書に描出せられたり。神出鬼没を極むる脱出記あり、仏国官憲の暴虐を罵る獄中記あり、追放記あり、巴里女の妖艶を描ける買淫記あり。しこうして欧州社会運動の現状よりロシア革命におよび、無政府主義とボルシェヴィズムの根本的差異を論じて氏が主張と態度とを明らかにす。全巻痛快にして壮絶、一代の風雲児大杉栄氏の真面目は髣髴として紙上に躍動せるを見る」（アルス社広告）



## 日本脱出記

より軽く、より厚く、より黒く。



### 土曜社

あたらしい本の出版

- >書名 日本脱出記
- >読み にっぽん だっしゅつ き
- >著者 大杉栄〈おおすぎ・さかえ〉
- >解説 大杉豊〈おおすぎ・ゆたか〉
- >装丁・本文組版 豊田卓〈とよた・すぐる〉
- >読者対象 東アジア近代史、政治思想、社会運動の学生・研究者
- >もくじ 日本脱出記・ヨーロッパまで／パリの便所／牢屋の歌／入獄から追放まで／外遊雑話／同志諸君へ／年譜／解説
- >仕様 ペーパーバック判（172×112 mm） 208ページ 全1色
- >発売 2011年4月10日
- >予価 952円（税別）
- >ISBN 978-4-9905587-0-3
- >関連書籍 『アナーキー・イン・ザ・JP』（中森明夫著、新潮社、2010年）ほか

書評用画像・見本・解説者取材の依頼など、心よりお待ちしております。

土曜社 〒150-0034 渋谷区代官山町14-6-301（プラハ3F）  
 担当：豊田剛（とよた・つよし） tsuyoshi.toyota@doyosha.com  
 t. 090-9818-1367 f. 03-6369-3339 www.doyosha.com

土曜社版『日本脱出記』刊行記念イベントを、4月24日代官山「M」で開催します。